

兵庫教育大学



# 学報

第250号  
平成15年 5月

題字 中洲正堯学長



(関連記事 3ページ掲載)

## 目次

大学院連合学校教育学研究科平成15年度  
入学式式辞 .....2  
 大学院学校教育研究科平成15年度入学式式辞...3  
 学校教育学部平成15年度入学式式辞.....5  
 学事 .....7  
 ・平成15年度学部及び大学院の入学者数等  
 ・附属学校の幼児、児童及び生徒の現在数等  
 人事 .....7  
 ・人事異動

諸報 .....8  
 ・運営評議会・教授会・学校教育研究科委員会  
 ・連合学校教育学研究科委員会  
 ・平成15年度兵庫教育大学新任職員オリエンテーションの実施  
 ・留学生が花見の会、さくらまつりに参加  
 ・教員研修留学生在が社町長を表敬訪問  
 ・学部新入生合宿研修の実施  
 ・学生ボランティア養成講座(要約筆記)を開講  
 学内委員会等委員 .....10  
 主要日誌 .....11

## 大学院連合学校教育学研究科平成15年度入学式式辞

学長 中 洌 正 堯

高槻の梢にありて頬白のさえずる春と、歌によまれるこの佳き日に、社町収入役、加東郡教育長、兵庫教育大学名誉教授をはじめとする来賓各位のご臨席と、上越教育大学長、岡山大学副学長、鳴門教育大学長、連合学校教育学研究科長をはじめとする関係教職員各位のご列席のもとに、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科平成15年度入学式を挙行し、ここに27人のみなさんをお迎えできますことは、本研究科にとって誠に大きな慶びとするところであります。みなさんが学の攻究をさらに深める強い意志と情熱を持って、この度めでたく入学されましたことは、もとよりみなさんのこれまでの日々の研鑽の賜物であります。と同時に、みなさんがひたすら研究に打ち込むことに対する、周囲の方々の深い理解によるところが大きいと思います。このときあたり、それら周囲の方々に改めてみなさんとともに感謝したいと思います。

本連合研究科は、平成8年4月に設置され、みなさんは8年目に入学されたこととなります。本連合研究科は、学校教育を中心とした教育活動や、教科の教育に関する実践的な体系的研究を行い、実践を踏まえた高度な研究指導能力を持った人材を育成することを目的とする博士課程であり、二つの専攻はいずれも実践学であります。

みなさんには、大きく二つの仕事が課せられることとなります。一つは、学校教育学の構築に参画し、博士論文としてその成果を世に問うことです。もう一つは、実践を踏まえた高度な研究指導能力を持つ人になることです。後者は、研究後継者になることや教育専門職に従事することによって具現化されます。

これら二つのことの実現に向かって、学校という帽子をかぶり、実践という靴をはいて研究生生活の身だしなみを整えていただきたいと思います。

実践は、総合的なものです。したがって、教育の実践学も、専門分野の特殊性に埋没するのではなく、他の領域からの照射に鍛えられた、総合に向かう専門性であるべきです。他の領域からの照射、その典型的な命題として、詩と科学の問題があると思います。

みなさんが取り組む研究の深化と拡充のために、一つの卑近の話題を提供し、この命題について留意

していただこうと思います。

時は春です。かつての文部省唱歌に「春が来た」というのがあります。

- 一 春が来た 春が来た / どこに来た / 山に来た 里に来た / 野にも来た
- 二 花が咲く 花が咲く / どこに咲く / 山に咲く 里に咲く / 野にも咲く
- 三 鳥が鳴く 鳥が鳴く / どこで鳴く / 山で鳴く 里で鳴く / 野でも鳴く

この一見単純な唱歌について、国語表現（言語表現）の視点から分析を加えると、次のようなことが指摘できます。

- 1 三連で構成されている。
- 2 題材は「春」「花」「鳥」である。
- 3 第一連の文末は「来た」の完了形、第二連、第三連は「咲く」「鳴く」の現在形。
- 4 第一連、第二連は「...に...」、第三連は「...で...」。
- 5 どのフレーズも五音のリズムになっている。
- 6 どの連も問答のようにになっている。
- 7 リフレインがある。
- 8 対句がある。
- 9 文頭はすべて、a母音かo母音である。
- 10 場所の順序が「山」「里」「野」となっており、これは必ずしも自然の順序ではない。
- 11 「山に」「里に」「野にも」から、「どこにも」という広がりを感じさせる。
- 12 唱歌「夏は来ぬ」とは、「が」と「は」、「来た」と「来ぬ」の違いがある。

12の「は」と「が」の問題は、国語表現のアポリアともいうべきものです。

国語表現（言語表現）の学習では、第四連を作らせます。そうすると、「蝶が舞う」とか「風が吹く」などが出てきます。風の場合は、「花が咲く」「鳥が鳴く」「風が吹く」となって、「く」の音が揃うのと、視覚・嗅覚、聴覚、触覚のバランスもとれます。

ところで、自然科学の視点からは、地理的には「山」「野」「里」の順ではないか、春はどういう順にやってくるかと考えます。また、この唱歌では、人は、「花が咲く」とか「鳥が鳴く」などによって、

「春が来た」ことを認知しているが、では、その花や鳥は、どのように春を感知するのかと問います。総合地球環境学研究所の所長である日高敏隆氏のエッセイ集の中に「春の教えかた」という文章があります。以下、その一節です。

－ 生きものたちも、多少の早い遅いはあるとはいえ、やはり春になれば毎年ほぼ同じ時期にちゃんと姿を現わしてくる。それはなぜか？ 昔から知られているのは、温度の積算である。日本のように温帯にある土地だと、冬の間、気温は何日かごとに変化する。いわゆる三寒四温である。生きものたちにはそれぞれに発育限界温度があつて、日本に棲む多くの虫では、だいたい摂氏五度から十度の間にある。ある虫の発育限界温度が五度だとすると、それを二度越えた七度の日が四日つづけば、二度×四日イコール八日度が、この虫の発育にとっての有効温量である。気温が上がってくると、有効温量の稼ぎはめきめき増加する。そして、この有効積算温量の総額が一定値（たとえば一八〇日度）を越えたら、卵から孵ったり、サナギからチョウになったりする－

そういうふうにして、「春が来た」ことを感知するというのです。個体の発育限界温度の決定、有効積算温量の総額の決定、それ自体、相当の実験観察を要することでしょう。唱歌「春が来た」を音楽学や音楽教育の視点からすると、また違ったアプローチの仕方がありましよう。以上、研究の深化と拡充

のために、詩と科学の話題を取り上げました。

博士課程の大学院は、一人の研究者が、志を同じくする世界の多くの研究者と知的交流をし、時代を越え、国を越え、文化を結んで、共に真理に近づく喜び、新しいものを創り出す感激を分かち合える場であります。

これからの教育系大学・学部の、研究・教育の活力の源泉はみなさんにあること、そして、望ましい教育現場の創造はみなさんによってなされることを確信し、精進を期待するものであります。健康に留意しつつ、大いなる成果をあげられますよう祈念して式辞といたします。

平成15年4月14日



## 学校教育研究科平成15年度入学式式辞

学長 中 洌 正 堯

桜の開花が彩りをそえる今日のこの佳き日に、社町長、本学名誉教授をはじめとすご来賓各位、本学役職員をはじめとする教職員各位のご列席のもとに、兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 平成15年度入学式を挙行し、255人のみなさんをお迎えすることができますことは、本学にとって大きな慶びとすところであります。

みなさんは、これから学校教育研究科に籍を置き、大学院学生として、さらに研鑽を積み、研究を深められるわけであります。

みなさんが希望する研究・教育の道に進むことができますのは、もちろんみなさんがこれまでに培っ

てきた学力と弛まぬ努力、そして何よりも研究・教育に対する強い関心と意欲によるものであります。とともに、みなさんがこの大学院へ入学あるいは進学できたのは、ご家族の方々をはじめ各地の教育委員会、所属長、在籍校のみなさま、また、みなさんの周囲の方々のご理解、ご支援によるものであることに改めて心せねばならないと思います。

本学は「教員の資質向上」という国家的、社会的な要請に応えて、主として現職教員に関する研鑽の機会を確保する目的で、昭和53（1978）年に創設されました。今年度で25周年を迎えますが、これまで、一貫して実践的な教育研究を指向し、発展をつづけ

ております。

この間に世紀の変わり目があり、その前後から、教育のキーワードとして「生きる力」が取り上げられるようになりました。阪神・淡路大震災などのきびしい現実が私たちの教育研究を根本のところから考えさせることになったのです。現在の世界の戦争状況もまた同様のことを考えさせます。

かつて、大脳生理学者の時実利彦は、「生きる」ことの意味整理を行いました。すなわち、まずは、反射行動・調節作用としての「生きている」ということ、次に、「生きている」ではなく「生きてゆく」ということ、これを三つに分けて、一つは、本能行動・情動行動としての「たくましく生きてゆく」、二つには、適応行動としての「うまく生きてゆく」、三つには、創造行為としての「よく生きてゆく」です。

この整理を改めて振り返るとき、私たちは、終わりの二つ、「うまく生きてゆく」「よく生きてゆく」に夢中になって、初めの「生きている」ことと「たくましく生きてゆく」ことの違いを、当たり前のこととして軽視していたのではないかと思うのです。

生命の維持という根幹の部分から「たくましく」へかけて、学校教育の教科や道徳、特別活動は、感覚（五感覚や運動・生理感覚等）の鍛えを意識し、学習の体験化を進めていく必要があります。教育研究はまずもって、そこに棹さすべきだと思います。

その先に「うまく生きてゆく」がやってきます。このことにすこし踏み込んで考えてみます。ムカツキやすく、キレやすい生き方があります。それは、一つは、切り換えの自己訓練ができていないこと、二つには自分の中のもう一人の自分の存在意識が希薄なこと、三つには自分なりの世界のよさが捉えられていないことなどによるのでしょう。

最初の切り換えの自己訓練というのは、しなくてはならないこと、したほうがよいこと（だが面倒なこと）を、“遊び”のようなものに換えてしまう心機であり、実際にそうしてしまう身のこなしのことです。ネア力を論じた子どものための哲学には、「他人のための奉仕それ自体を、自分の娯楽にしちゃうこと」（永井均）というのがあります。

次に、自分の中のもう一人の自分の存在意識というのは、自分が嫌っている人間の要素や側面（自分とは反対の性格など）が自分の中にもあるということの自覚です。そういう自覚も身のこなしを変えていきます。

さらに、自分なりの世界のよさを捉えることというのは、自分なりの、生きるに値するものの発見の

ことです。学習者たちは、それをどこから、何から見出すのでしょうか。その気になれば家庭、学校、社会のどこからでも、身の回りの現実の何からでも見出すことはできましよう。中でも、学校教育が中核とする教育内容は、文化の継承と創造であり、各教科や道徳、特別活動は、学習者たちが各自の好きなことに道をつけたり、人間の生き方のモデルやヒントをつかんだりする資料（文化財）や具体的な方法が、家庭や社会よりは学習者用に整備されています。いや、そうはなっていない、とすれば、まさに、それこそが学校教育の研究課題なのでしょう。

「うまく生きてゆくこと」の裏には、ずるく、要領よく、わがままを通して世渡りをしていくということがあります。それは、自他のよさを尊重する生き方ではないし、おそらく相手や他人を傷つけずにはすまない生き方であって、求める生き方ではありません。

最後に、「よく生きてゆく」についてであります。成長途上の学習者たちに、すぐさま高いレベルの創造行為を求めることはできないでしょう。しかし、「うまく生きてゆく」のところで述べた“自分なりの世界のよさの発見”を、すでに素朴な意味での創造行為であるとし、ここでは、その延長線上に、創造行為を求めていくことができましようし、そのための教育研究も可能でしょう。

創造行為のために必要なものとして、三つの能力を取り立ててみます。一つは、課題生成および解決の能力であり、二つには類推力（類比推論する能力）であり、三つには想像力であります。これらも、各教科や道徳、特別活動の恰好の教育研究の課題でありましよう。創造行為は、自分をよく生かす行為であると同時に、自分をとりまいて「もの・こと・ひと」をよく生かす行為であることを忘れてはなりません。創造行為は、何らかのかたちで身の回りの生活や文化を豊かにしていく行為だからです。

「生きる力」は、相手をよく「生かす力」となって完結します。今、地球レベルの世界の状況、足元の日本の社会の状況を考えるとき、「生きる力」は、相手を「生かす力」となることが強く求められていると思います。

おわりに、みなさんの2年間の大学院生活が、新たな時代の学校教育を中心とした教育の担い手を目ざして、充実したものとなることを切に期待して式辞といたします。

平成15年4月7日

## 学校教育学部平成15年度入学式式辞

学長 中 湧 正 堯

白い木蓮の花が春の光に輝くありさまを鶴万羽と表現した人があります。鶴万羽のこの佳き日に、社町長、本学名誉教授、後援会会長をはじめとするご来賓各位、本学役職員をはじめとする教職員各位、そして、ご家族の皆様のご臨席のもとに、兵庫教育大学 学校教育学部 平成15年度入学式を挙行し、はつらつとした185人のみなさんをお迎えすることができますことは、本学にとって誠に大きな喜びであります。

みなさんが本学に入学するまでには、みなさん一人一人の強い意志とたゆまぬ努力があったことと思いますが、今日までみなさんを支えてこられたご両親やご家族のみなさま、各学校の先生方、また、みなさんの友人たちに、みなさんとともに心からお礼を申し上げたいと思います。

みなさんは、今日から始まる学生生活をどのように送ろうと考えていますか。これからの4年間の大学生活の中で、自分という人間をつくり上げ、みがきをかけることを心がけてください。そのためには、自分が今いる回り、足元を認識しながら、一方では、4年間の先を、先を見通すようにして生活することが肝要です。

みなさんは、先程まで、この前に下がっていた緞帳の絵を見ていたと思います。これは本学の名誉教授、上昭二先生のデザインによるものです。何を描いているものか分かりましたか。向かって右側、上手と言います。中央から上手よりに、若者たちが集まって何か語り合っています。これは現在のことであり、みなさん自身と言ってもよいものです。左側、下手には、鬼が踊っています。これは、この社町にある国宝、朝光寺で毎年五月五日に行われる「鬼追踊り」を描いたものです。これは過去からの継承であり、伝統を意味しています。背景上段の緑は大学の自然環境を、背景下段の赤は大学の輝ける未来を表し、創造を意味しています。

社町の「社」ということばは、本来「いやしろ」であり、癒しの場を意味しているという考え方があります。そこでは、「社が象徴する癒しの四つの意

味」を挙げています。一つには「神聖な場」で、けがれを払い本来の姿になる場です。二つには「集会の場」で、心身ともに他と和合する場です。三つには「踊りの場」で、いのちがよみがえってくる場です。四つには「競技の場」、健やかに、元気に生きる場です。

緞帳の絵から、私たちは、兵庫教育大学が「神聖な場」「集会の場」「踊りの場」「競技の場」という象徴的な意味をもつ「いやしろ」の地にあること、そして、大学自体がそのような清潔で、さわやかな場（神聖な場）となり、みんなでものごとを創り出していく場（集会の場）となり、生きるよろこびを感じる場（踊りの場）となり、よい意味での鍛え合い、競い合いの場（競技の場）となることの精神を読み取ることができます。

「踊りの場」に関して例をあげれば、みなさんの先輩が全国的な気運に乗じて、兵庫教育大学からも発信した「よさこい踊り」、「社」にひっかけて「よっ社こい」と称しているものがあります。地域の団体と組んでイベントを立ち上げるなど、若々しいエネルギーを爆発させました。また、先輩には「創作和太鼓」に取り組んだケースもあり、これらと先の「鬼追踊り」が結びつくと、新たな文化創造へと展開するのではないかと、伝統と創造へ思いを馳せてわくわくするのを感じます。

文化創造ということでは、大学でビデオ制作をしています。今は、「子どもの世界」というのと、もう一つは「兵の道、巡礼の道 - 中世東播磨の戦争と平和 - 」の2本ができています。これを見ますと、過去から未来へ向かって、兵庫教育大学の置かれている位置がよくわかります。

身近な足元を認識することの話を申し上げましたが、もう一つ、先を見越した話もおきます。兵庫県が主催しておこなう「大学洋上セミナー」というのがあります。2004年（来年）の夏、わが兵庫教育大学が講義担当大学となって、県下の国公立大学と協力して実施します。この「大学洋上セミナー」にかぎらず、みなさんはこれからの時代、積極的に

国際交流経験をし、地球規模で生きる視野をもつ必要があります。

2002年(昨年)夏に、私は、この「大学洋上セミナー」で、中国広州、シンガポール、オーストラリアのパーズまで行ってまいりました。そのときに感じた最大のことは、英語等の語学力はもちろんのことですが、自分の国に関することや訪問先の国々のことについて、きちんと話し合うことのできる「教養」というものの質量と、そこで得るものの質量は正比例するということでした。その場合、幅広い教養に越したことはありません。ですが、少なくとも、自分の興味・関心のある自然、人間、社会、文化などのテーマについて、大学生であるならば、新書レベルの教養は蓄え、自分なりの考えをもつべきだということでした。もし、みなさんが、大学の2年生、3年生になって、国際交流経験を展開するとして、また、そうではなくても、この1年間かけて、みなさん自身の将来に役立つ、どのような「教養」を身につけようとするかについて、真剣に考え、指示待ちではなく、積極的な努力を開始していただきたいと思うのです。

国際交流経験では、予めのことではなく、後で出会うことがらもあります。オーストラリアのパーズで、街路樹の大木から大木を飛び交うカラフルな鳥、レインボー・ラロキート(五色青海インコ)を多く見ました。レインボーとか五色とかというように、南国調の色鮮やかな鳥で、かなりけたたましい声で鳴きますので、否応なく注意を引きます。

話は変わりますが、例のブームになったハリー・ポッターの第一作『ハリー・ポッターと賢者の石』を、「大学洋上セミナー」から帰って後に読みました。物語の中では、「賢者の石」の置いてある部屋へ入るための鍵が鳥になっています。「宝石のようにキラキラとした無数の小鳥が、部屋いっぱいに飛び回って」いて、「柔らかく擦れ合う音やチリンチリンという音」を立てています。しかも「虹色の羽の渦」と表現されるに及んで、私は、ああこれは、まさにあのレインボー・ラロキートの世界だと思ったのです。とたんに、物語がにわかにリアリティを帯びてくるのを感じました。

以上、足元のことと、足元からの世界への広がりのお話ししました。大学という学びの場を楽しんでいただきたいと思います。低きに流れることなく、志を高くもち、感性を生き生きとはたらかせ

て、兵庫教育大学における毎日が、みなさんの一生にとって、かけがえのない時となるように祈ります。

おめでとうございます。みなさんを心から歓迎いたします。

平成15年4月7日



## - 学 事 -

平成15年度学部及び大学院の入学者数等

学校教育学部初等教育教員養成課程

区 分	入学定員 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
学校教育専修	160	188(2)	73
教科・領域教育専修			112(2)
合 計	160	188(2)	185(2)

備考：( )の数は私費外国人留学生を示し、内数である。

大学院学校教育研究科（修士課程）

区 分	入学定員 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
学校教育専攻	105	120	92
教育基礎コース	15	21	12
教育経営コース	10	14	12
教育方法コース	20	16	13
生徒指導コース	10	11	10
幼年教育コース	10	16	8
教育臨床心理コース	40	42	37
昼間クラス	25	27	24
夜間クラス	15	15	13
障害児教育専攻	25	49	30
教科・領域教育専攻	170	160	133
言語系コース	35	35	31
社会系コース	25	24	20
自然系コース	30	18	14
芸術系コース	25	29	22
生活・健康系コース	25	20	17
総合学習系コース	30	34	29
昼間クラス	15	24	20
夜間クラス	15	10	9
合 計	300	329	255

大学院連合学校教育学研究科（博士課程）

区 分	入学定員 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
学校教育実践学専攻 学校教育方法 学校教育臨床	8	9	9
教科教育実践学専攻 言語系教育 社会系教育 自然系教育 芸術系教育 生活・健康系教育	16	18	18
合 計	24	27	27

附属学校の幼児、児童及び生徒の現在数等

附属幼稚園	3 歳 児	2 4
	4 歳 児	7 0
	5 歳 児	6 4
	計	1 5 8
附属小学校	第 1 学 年	8 6
	第 2 学 年	9 2
	第 3 学 年	7 8
	第 4 学 年	8 7
	第 5 学 年	8 1
	第 6 学 年	9 9
	計	5 2 3
附属中学校	第 1 学 年	9 8
	第 2 学 年	1 0 6
	第 3 学 年	1 0 3
	計	3 0 7

## - 人 事 -

(学部等)

年 月 日	発令事項	新 官 職 等	氏 名	旧 官 職 等
15. 5. 1	採 用	学校教育学部助手 (言語系教育講座)	棚 田 真由美	

## 人事異動

(事務局)

年月日	発令事項	新官職等	氏名	旧官職等
15. 4. 5	採用	教務部教務課サテライト事務係 事務補佐員	高田豊司	
15. 4. 7	"	"	西尾由夏	

## - 諸 報 -

## 運営評議会

第1回 平成15年4月2日(水)

(議題)

- 1 兵庫教育大学大学院修士課程の入学者確保策について
- 2 「大学院学生確保対策プロジェクトチーム」の設置について
- 3 教員組織の整備方針について
- 4 大学評価・学位授与機構が行う全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」の事前調査回答について
- 5 修了生ネットワークの設置について
- 6 平成15年度学内予算配分(案)について
- 7 「スクールサポーター制度」実施に係る協定について

## 教授会

第1回 平成15年4月3日(木)

(議題)

- 1 教員の選考について
- 2 平成15年度学校教育学部授業科目担当教官の変更等について
- 3 平成15年度学校教育学部入学者の専修所属について
- 4 2年次進級時における学生の専修等の所属変更について
- 5 放送大学との単位互換協定に基づく修得科目に係る単位認定について
- 6 学部学生の学籍異動について

## 研究科委員会

第1回 平成15年4月3日(木)

(議題)

- 1 兵庫教育大学大学院修士課程の入学者確保策について
- 2 大学院学校教育研究科担当判定委員会の設置について
- 3 大学院学校教育研究科担当の認定について
- 4 平成15年度大学院学校教育研究科授業科目担当教官の変更等について
- 5 大学院学生の学籍異動について
- 6 協定に基づく特別聴講学生の単位認定について
- 7 研究生の退学について

## 連合学校教育学研究科委員会

第1回 平成15年4月14日(月)

- 1 平成15年度入学者の決定について
- 2 主指導教官, 副指導教官の決定について
- 3 代議委員会委員の選定について
- 4 副指導教官の変更について
- 5 平成15年度授業科目担当教官の変更について
- 6 研究科学生の学籍異動について
- 7 平成15年度ティーチング・アシスタント経費の配分方法について
- 8 平成15年度リサーチ・アシスタント(RA)経費の配分について
- 9 博士候補認定試験の実施について
- 10 平成15年度入学料免除について
- 11 「連合学校教育学研究科歳出予算配分基本方針」の一部改正について



### 平成15年度兵庫教育大学新任職員オリエンテーションの実施

本学の新任職員を対象とするオリエンテーションが、4月2日（水）～4日（木）に附属図書館ライブラリー・ホールにおいて、34人の新任職員が参加して実施された。

オリエンテーションでは、新構想大学である本学の沿革・理念、現状等の説明と国立大学法人化についての講義等が行われ、新任職員は認識を深め、本学職員としての使命と心構えを自覚する研修となった。

### 留学生が花見の会、さくらまつりに参加

毎年、地域のボランティア団体及びやしる国際交流協会と花見の会を開催しており、本年も多数の留学生が参加した。

4月5日（土）はボランティア団体の恒例の花見会があり、また、4月20日（日）には社町のさくらまつりが行われた。両日とも雨、と天候には恵まれなかったものの、雨上がりの桜の下を散策し、初めて見る桜に感動したり、雨にけむる播州清水寺や野点に、ひとときの日本の風情を楽しみ、地域住民との親睦を深めた。



### 教員研修留学生が社町長を表敬訪問

平成15年度の教員研修留学生が、4月15日に社町長を表敬訪問した。

この表敬訪問は、4月から1年間本学で研修を行うにあたり、研究はもとより様々な交流を地元の役場、教育機関、フレンドシップファミリー等の支援を得ながら進めるため、毎年行っているものである。

当日は、田中社町助役から、社町の概要や行事・名所の紹介が行われ、留学生にとって興味深いものであった。また、中国、韓国、マレーシア、ペルーから

の留学生4人が、それぞれ日本での研究の目的や自分のエピソードを述べ、田中助役から励ましの言葉をいただき、交流の第一歩となった。



### 学部新入生合宿研修を実施

平成15年度学部新入生合宿研修を4月15日（火）、16日（水）に実施した。

この合宿研修は、入学して間もないこの時期に集団生活を通して、同級生やクラス担当教官との交流を深めるとともに、修学及び学生生活上の指導を目的として毎年開催しているものである。

今回の研修は、15日の午前中は本学講堂で学長講話、保健管理センター長による講演、本学で就職相談員をして頂いている城谷、前田両先生による1年生からの就職（教職）を意識した学生生活について講演があった後、午後から場所を国立淡路青年の家に移し、佐藤副学長による修学指導、専修別・班別討議とその発表、レクリエーション等を行った。

また、帰学後、クラス代表者会議主催の歓迎会が大学会館食堂で行われ、有意義な2日間を締めくくった。



学生ボランティア養成講座（要約筆記）を開講

4月16日（水）、23日（水）に学生ボランティア養成講座（要約筆記）を開講した。この講座はボランティア意識の醸成のため平成12年度から開講している講座で、今年度は4月、10月、12月に開講を予定している。

本学では現在、聴覚障害学生を支援するため、学生ボランティアによる要約筆記を実施している。今回の講座は、支援学生の養成が急務であることから、要約筆記の基礎について実技をまじえ開講し、学部学生・大学院学生33人が受講した。



## - 学内委員会等委員 -

は委員長を、 は副委員長を、〔 〕内は担当課を示す。

### ○実地教育委員会

委員氏名	職名(所属)	任期
名須川知子	(学部教務委員会副委員長) 教授(幼年教育講座)	
千駄 忠至	(大学院教務委員会副委員長) 教授(生活・健康系教育講座)	

[教務課]

### ○教員等就職対策委員会

委員氏名	職名(所属)	任期
名須川知子	(学部教務委員会副委員長) 教授(幼年教育講座)	
松本 伸示	(学生委員会副委員長) 教授(総合学習系教育講座)	

[教務課, 学生課]

### ○附属発達心理臨床研究センター運営委員会

委員氏名	職名(所属)	任期
鈴木 啓嗣	教授(教育臨床講座)	15. 4.24 ~ 17. 3.31

[庶務課]

## - 主要日誌 -

月 日	事 項
4月1日(火)	学部専修の志望に関する説明会 学生寄宿舍入居手続
4月2日(水)	運営評議会(第1回) 学生委員会 学生委員会・新入生クラス担当教官合同会議 平成15年度兵庫教育大学新任職員オリエンテーション(4日まで) 学部入学試験委員会(第11回)
4月3日(木)	全学教官会議 教授会(第1回) 研究科委員会(第1回)
4月4日(金)	国立大学法人化準備委員会「財務会計制度部会(第14回)」 学生定期健康診断(8・9日) 学生寄宿舍・国際交流会館入居説明会
4月5日(土)	春期休業(大学院(修士・博士), 学部)終了
4月7日(月)	大学院学校教育研究科入学式 学校教育学部入学式 大学院(修士)新入生オリエンテーション(9日まで) 学部新入生オリエンテーション(9日まで) 附属図書館夜間開館開始(7/30まで) 後援会総会
4月8日(火)	学部クラスミーティング
4月9日(水)	附属小学校, 中学校入学式
4月10日(木)	授業開始(大学院, 学部) 附属幼稚園入園式
4月11日(金)	国際交流委員会(第1回) 大学院(修士課程)新入生歓迎会
4月12日(土)	教員採用試験対策模擬試験(第1回)
4月14日(月)	大学院連合学校教育学研究科入学式 連合学校教育学研究科委員会(第1回) 連合大学院新入生オリエンテーション 大学院教務委員会(第1回) 授業開始(大学院(博士2,3年次)) 修士課程学生確保対策プロジェクト会議(第1回) 図書館利用説明会(18日まで)
4月15日(火)	授業開始(大学院(博士1年次)) 学部新入生合宿研修(16日まで)
4月16日(水)	学部新入生歓迎会 教職講座 一般教養・教科専門セミナー ボランティア養成講座
4月17日(木)	国立大学法人化準備委員会「組織業

	務・人事制度部会(第23回)」 一般教養・教科専門セミナー
4月18日(金)	自己評価実施委員会(第7回)
4月19日(土)	附属中学校修学旅行(22日まで)
4月21日(月)	F D推進委員会(第1回)
4月22日(火)	修士課程学生確保対策プロジェクト会議(第2回) 学生寄宿舍棟長会
4月23日(水)	大学院教務委員会(第2回) 学部教務委員会(第1回) 学校教育研究センター運営委員会(第1回) 教職講座 ボランティア養成講座
4月24日(木)	実地教育委員会(第1回) 一般教養・教科専門セミナー
4月25日(金)	国際交流委員会留学生専門部会
4月30日(水)	附属学校運営協議会(第1回)

プリントアウトの  
無駄をなくそう  
~印刷前にもう一度確認を~

編集発行 兵庫教育大学総務部庶務課

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1

電話 代表(0795)44-1101